

定例教育委員会会議録

令和5年8月29日

境港市定例教育委員会（令和5年8月29日委員会会議録）

招集年月日 令和5年8月29日 15時30分

招集場所 市役所第一会議室

開 会 15時20分 教育長宣言

教育委員会 教育長 山本 淳一

委 員（職務代理者） 中田 耕治

委 員 十河 淳 渡邊 不二子 大部 由美

教育長から説明のため出席を求められた者

教育委員会事務局長 松 原 隆

教育総務課長 角 純 也

教育総務課長補佐兼指導係長 柳 樂 力 人

主幹兼指導主事 築 谷 健 作

生涯学習課長 松 本 昭 児

管理係長 今 井 洋 介

傍聴者数 なし

会議書記 管理係長 今 井 洋 介

提出議案 なし

協議事項 標準学力検査について

全国学力・学習状況調査について

報告事項 8月の行事報告、9月の行事予定

境港市民図書館の利用状況について

【1. 開会】

山本教育長

皆様お揃いのようなのでただいまから8月の定例教育委員会を始めます。

【2. 前回議事録承認】

【3. 議事】

山本教育長

本日は議決事項がありませんので、協議事項からとなります。それでは、事務局より標準学力検査について説明をお願いします。

柳楽補佐より説明

山本教育長

つづきまして、協議事項として、全国学力・学習状況調査について、事務局より説明をお願いします。

柳楽補佐、築谷主幹より説明

山本教育長

ただいまの説明について質問等ありますでしょうか。

渡邊委員

皆様がいいところを一生懸命見つけて話されているなど。でも、それって指導の原点なんですよ。子どもたちのどこが優れていて、それでもやっぱり足りないものはどうやってやっていくかというところを学校でもすごく工夫しているので、ありがとうございます。少し気になったのは、無回答率というのが結構高いことです。境港市の子どもたち、特に、国語でも、算数でも説明して書くところの割合が高くなっているの、子どもたちにとって壁が高い、全国的にも壁が高いのだと思います。もしかしたら本当は少しなら書けるとか、途中までなら書けると思うんですけど、はじめから投げ出しているのかなというところが、みられるのではと思いました。国語の問題で「二人のボランティアさんがどういった思いでボランティアを続けているのかについてわかったことをまとめて書く」問いは、無回答率が高いなというのをすごく思いました。算数についても、「示された棒グラフや複数の棒グラフを組み合わせたグラフから、見出した違いを書く」といった問いが同様に無回答率が高いです。説明するのが少しハードルが高いから、日頃の

授業にもそういったところの、ちょっと苦勞するような、先程柳楽補佐が説明したところをやっぴりこう普通の授業の中に入れていかないとなかなか急激には難しいだろうなというのをちょっと感じました。それからもう一つ、高学年教科担任制は境小学校がされているとのことですが、他の学校もやっているのではないのでしょうか。

柳楽補佐

そうですね。小学校高学年教科担任制については、本市に加配が1名配置され、境小学校でモデル的に行っております。ただ、この加配については、国の方が現在の小学校専科加配をだんだん高学年教科担任制に移行しており、たくさんの目で子どもを見ていこうと変わって来ていて、中学校に行ってから、学習になじむことができると思います。境港市も引き続き加配を要望していきたいと考えております。他の学校がしてないというわけではなくて、例えば英語専科教員を配置し、その方が英語を担当しています。先程と同じで算数や理科は特定の教員が担当するなど、各校が上手にやりくりしながら取り組んでいます。境港については、令和7年には全学年30人学級になる見込みですので、そうするともう、学年で31人とか32人という人数になるので、そういうところは教科によって学年で一緒に、例えばオンラインで、校区の中で、総合的な学習の時間を合同で行うことも可能です。これについても、校区で一人の先生がオンライン上で全体に話して、その後は各学校で学習を進め、まとめは、CSを利用して地域の人を含めた校区の方々にアウトプットすることも有効と考えています。そうするとそれぞれの地域がお互いに中学校に行っても、すぐに仲良くなり、スムーズなスタートがきれると考えます。そういったところを仕組んでいくことで、効果が出ていくと思います。先程の書くことについては複数の条件をクリアしながら書いていかないといけないという問いです。普段の学習の中で長くは書けるのだけど、そうじゃなくて、60文字に限ってとかというのは非常に大事だと思いますし、「文章からわかることに加えて、自分の考えも書きなさい」という問いが最近よくあるので、そういったところは普段から、子どもたちを鍛え上げていかないといけないのかなと思います。

山本教育長

そのほかいかがでしょうか。

中田委員

教科ということよりも、やはり普段からそういった風に考えていく習慣みたいなものが無いと、人って国語だ算数だ理科だっていうことで考えていって、それをみんなつなげていった時のものの考え方というところ、普段の生活の中からも考えていけるようなそんな環境づくりというところ、先程言われた、知的な好奇心を高めることで、学んだことを自分で深める習慣をつけることが大切で、それは家庭環境とか家庭学習ということになってくるのかもしれませんが、そういったことを考えることによって全体がアップしていくということではあると思います。

柳楽補佐

教科横断的にということもありますし、でもそこで力を発揮するためにはそれぞれの教科で学んできたことを組み合わせることで活用する力をつけることが大切です。算数や数学でグラフ化していくとか、伝える場面で、言葉で言うのもいいんですけど、こういった表やグラフをみんなに見せながらやるとよりいいとか、そういったモデルを、小さな段階から学習したことの範囲の中、経験できるようにすることが大切です。先生方もそういう発表が無ければモデルとして示していくことで、じゃあ自分のここを表にしてみようとか、グラフにしてみようとかという興味が出てくると思いますし、それは中田委員がおっしゃられるように、いろんな教材が、グラフとか、理科にしても社会科でも出てきます。そういったところをもとにしていくということも非常に大事になってくると思います。それを一番学校生活の中でいろんなところで表していけるのは、鍛えようと思えば総合的な学習の時間とかを使えると思いますし、いろんな委員会活動ですとかそういったようなところでも、こういった力というのは発揮できると思うので、それぞれ学んだことを踏まえて、子どもたちが使えて初めて自分のものになるのだと思うので、そういったところを支えていくということが大事であると思います。

中田委員

使えて初めて自分のものになるという価値観はそうなんですけれど、学習の中で、例えばここをグラフにしましょうと言って、グラフを作成して、そこで終わってしまうじゃないですか、学校の中では。でも実際に欲しいところというのはそこから先

ということになりますよね。で、その先を考えていくような習慣というのは、この学習は自分の生活の中のこのためにあるんだとかという実体験とかって、我々50年も生きていればそういう風に考えるようになってきますから、これはこのための学習だったんだというのを振り返ってみることができる。子どもたちというのはまだそこまでの経験が無いというところで、特に補助するしかないかもしれませんが、じゃあ生活の中でここに役立つよねとか、買い物に行ったときに、この割合っていうのは、このバーゲンっていうのはこれなんだよねっていう、そういった身近なところの実体験として結びつけるということはとても大事だと思うんですけど、実際それを考える中で感じて取り入れておられるとは思いますが。

柳楽補佐

とても大事だと思います。全国学力・学習状況調査が始まってから、割合は継続的に課題となっています。でも生活の中で割合はたくさん出てきます。例えば大リーグの大谷選手が今3割打っている。ちょっと待って、3割ということは、100打席立ったら、何本ヒットを打ったことなの？とか、そういったところをパッと30本と出てきたりとか、これが1,000打席になったらとか、他にも、スーパーで3割引と書いてある、例えば800円の少し高価な刺身があったとして、これがだいたいいくらくらいで買えるかというのが見えるとか、半額と書いていたらいくらかとか、わかるといいです。まあ消費税があるので、足りるか足りないかの問題になりますが。

中田委員

学習と生活の中でというのが一緒になっていない、結びつけられていない、想像ができていないということももしかしたらあるのかもしれないですね。学校は学校、生活は生活、その接点を結び付けるものというのがあれば。そこら辺がどうなんでしょうか。

柳楽補佐

新しい生活の中でというのは、例えばシールを貼った食品のパックなどを提示して、学習をすると盛り上がりそうな気がするんですけど、今の子どもがどれだけ買い物に付いていけるのかというところもあったりして。先生方がすごく工夫されるんですけど、この割合というのがやっぱりなかなか難しいところでして、なんとなく言葉の式で基準量とか比較量とか割合と

かってやるんですけど、それで覚えると理解できたという問題じゃないので、難しいです。

渡邊委員

気付かって難しいですよ。先程の面積の問題も、多分三角形の公式はわかっていると思うのだけど、公式の条件と少し違ってもう解けない、みたいな。その先を一步考えるということの楽しみ、授業の工夫が必要かなと思いがちちょっと聞かせてもらいました。CRTについては、落ち込んでいるところの改善、特に3年生とかすごく大事なところですよ。3年生すごく抽象的な学習が増えるので学校としても多分肝だと思えます。1年生のひらがなが読めるか読めないかというところもすごく大事だけれど、3年生の学習というのも力を入れて、学校として取り組んでいくことが大事じゃないかなと。

柳楽補佐

難しいところで、生活科から始めて理科や社会科が出てきて、これまでは35人学級になるということでなかなか厳しいところもあったんですが、そこは鳥取県の方が先行的に30人学級を導入しているので、やはり日々の中でどんどん力をつけていかないといけない。それぞれの教科もあるし、先程言ったように、横断的にということも大切です。それで、3年生になると総合的な学習の時間も入ってきますので、トータルで見て行く必要があると思います。

渡邊委員

でも、すごく細かい分析をしてくださっているので、これは先生たちの宝になります。ありがとうございます。

山本教育長

大部委員いかがですか。

大部委員

こうやって点数に出てきてしまうことなので、多分、時間をかければかけるほど解けるかもしれないけれど、この時間内という点数だと思うんですけど。やっぱり私もずっと言語が大事だって言ってきて、例えば英語を、母語ができないと多分そこがつながっていかないとか、頭の回転や切り替えも大切と思いますが、皆さんの話を聞いていると、やっぱり家庭教育なのかなという風にすごく感じます。我々が小学生だった時も、私も勉強して覚えることは本当に苦手なんですけど、でもそれはやっぱり勉強することが大事だという風に刷り込まれて、点を

取るということをやりながら、でもそれって大人になって実はやっていてよかったなみたいなことになってくるんですけど。多分今、子どもたちとか実体験が無いもの、これをじゃあ覚えてどうなるんだということだったりとか。あと、そもそも言語がわからないから文章が理解できずに算数が解けない。なので、国語をどうされているのかな、その、国語の授業を多分もっと前に比べて、その対話ができるとか、探求してなぜならばと掘り下げられるような勉強にもっとなっていないと、この先きっと、我々は多分それを解消したのはクラスの数が多かったりとか、そこで生き残るためとか、地域の人と会話する、例えば、小さい時に買い物を頼まれることが多くて、この1,000円の中で買ってきてねと言われたら、じゃあどっちを選ぼうかなと困ったとか、おつりは私のものになるんだとか、だったらどれを選ぶんだみたいなことが生活の中にあったものが、学習とリンクしているものだったり。地域の人が目を向けてくれて、例えば「今5人で何をしているんだ」みたいなことを聞かれて、これこれこうしているということをちゃんと説明ができたことが、今はなんか変な人だと言って逃げちゃえばいいんだとか、不審者に会いましたみたいな、ちょっと知恵がついて、そこの生活の経験がなかなかこう今は転ばぬ先の杖を突くことも多くなったり。電子マネーで払えば数を数えられないですよ。私たちだって、東京に来て、SUICAをかざして、電車でこれくらい使っちゃったんだみたいな。で、この線とこの線は切替えの切符を買わないといけなかったんだと並ぶとか、ということが生活の中で無いし、鳥取県なんか特に無い。それを比べるなって私も人と比べながら生きてきたので比べることって大事だと思うんですけど、実際、全国と比べることが必要なのかとか、境港市でどれくらいの数値を目標にするかは、その数値と比べてどうなのかという風にすることの方が大事なのかなと思います。全国は全国でそうですよね平均的に。我々は境港市としてこの子たちをどういう学力をつけるのか、生きる力をつけたいからという方が路線になるのではないかなという風には思ったりもするので、国語の在り方を考えると、本当に言語は6歳までの教育と小学校からの教育がリンクしているのかなとか、親御さんと協力しながら小中高って上に行くのに対してどうしていくのかな、ということをおある程度考えていかなきゃいけないのかなという風なことは、いろんなお子さんを預か

っている身なので、それをちょっと聞きながら思いました。

山本教育長

十河委員いかがですか。

十河委員

境港の子どもたちって、自己肯定感の数値がすごく高い、それで、地域のことにもたくさん参加したいとか、でも、学力の面ではというところで、じゃあ都会の子どもたちって地域のことや行事にいっぱい参加していないのにどうして、昨日も学校の教育委員会で話をしていたんですけど、都会の価値とか、成績が高いのは地域のことに参加していないのになぜとか、どこにそこに成績が地域と関わって成績に結び付くんだとかということも含めて、すごく自己肯定感も高いし、これが情緒が安定してて、学習に結び付くのだということはわかるんですけど、先程柳楽補佐も言われましたけれど、もっと地域の人と関わって、大部委員も言われましたけれど、地域の、学校の先生以外の人に説明するとか、そういう場面というのが少ないので、経験的にもそういうところから今の生活と勉強にリンクしていかないといけないのかなという風に非常に感じました。また、家庭学習で、時間が少ないというのは問題ではあるんですけど、宿題は出されて嫌々やるんじゃなくて自らこれはしないといけないのだと思ってやると、何倍にも伸びる力というのが、やらされると、嫌々やってしまう、仕方なくというところがあると思うので、問題提起として、あなたがこれからするためにはこういうことしないといけないよねという問いかけがあったりそういう宿題の出し方とか、だからこういうことを勉強していかないといけないから、このためには、これくらいのことを一日頑張ろうねとか、そういうやり方の方がいいのかなとか思ったり。なかなか自分で計画を立てるのは小学生とかすごく難しいかなと思います。それで自学ノートみたいなのを何冊やりましたとかそういうことになってしまうと、またそれもあれかなと思って、なぜこれを勉強しないといけないとか、そういうところを、今30人学級でというお話もありましたけれど、それぞれに応じて、あなたはこういうところが苦手だから、ちょっとこういうところを頑張ろうねとか、そういうことは実際にされていると思うんですけど、もうちょっと個々に勉強、一律に宿題をやるのではなくてということも、今負荷をちょっとかけ気味にとかという話にもありましたけれど、そういう形で

していくのもいいのかなという風に少し思ったりもしました。でも、すごく丁寧に最初分析して、本当に素晴らしいデータができていると思うので、これを活かしていただきたいなと思いました。

中田委員 学校で考えすぎなんじゃないですか。

山本教育長 それがもうひとつとれていないところになっていて、学校、教育委員会だけでなんとかしようとか、学力をとらえるということについて、一緒になってやっていけないといけないし、ただ宿題に関しては上手く家庭学習が成立するという家庭の問題だということではなくて、何か簡単に家庭で一緒になって深掘りしてもらえばいいんですよ。

大部委員 ニュースを一緒に30分見るだけでも違うと思うのですが。

山本教育長 ニュースについてこれはどういうことなのか一緒に深掘りして話し合う。勉強というのはそれですよ。ちょっと家で毎回、今日どうだった、何の先生のどれが一番面白かったから始まって、そこを深掘りしてもらったり、話題のニュースや面白いことについて深掘りすることを一緒にやってもらったら変わるだろうなと思います。本当にいい形で今のご意見を、校長会でもまたフィードバックして、さらに学校もブラッシュアップした状態で子どもたちに返していこうと思います。
ありがとうございます。

山本教育長 その他よろしいでしょうか。それでは協議事項は以上となります。ここからの進行は事務局の方でお願いします。

【4. 報告事項】

事務局 それでは、報告事項・行事予定について、教育総務課、生涯学習課からお願いします。

《教育総務課 生涯学習課 行事等報告》

※松原局長より教員採用試験・第2次、県吹奏楽コンクール、教職員指導力向上研修事業（ことばの力を育む授業）、学校閉庁日、通学路合同点検、小・中学校第2学期始業式、中学校職場体験実習、各中学校修学

旅行、小学校運動会（一部10月延期）、西部地区英語弁論暗唱大会、小学校連合体育大会、西部地区秋季総体、中P連主催教育懇談会（10月開催）、小P連主催教育懇談会（10月開催）等について説明

松本課長より決算審査、ねんりんピック運営委員会、境港市社会教育委員会議、夏季街頭補導、みなとフィールドスタディーキャンプ、渡スポーツ少年団市長表敬、二十歳の集い実行委員会、つながるきずな★中浜、ねんりんピックプレ大会、海とくらしの史料館臨時休館、スポーツ推進委員研修会等について説明

《図書館 利用状況等報告》

※資料配布

事務局

ただいまの行事報告・行事予定について質問等ありますでしょうか（質問等なし）。
次回日程確認。

【5. 閉会】

山本教育長

それでは本日の定例教育委員会は閉会といたします。ありがとうございました。